



“積極進取！”



～ 創立百十周年記念式典 !! ～

不慮の事故により延期となっていた「県立第二中学校・那覇高等学校創立百十周年記念式典」が、11月28日(土)八汐荘にて行われました。様々な影響を考慮し、参加者を最小限にとどめて滞りなく終えることができました。

本校は明治43年4月、首里城内に沖縄県立中学校分校として創立し、翌年4月県立第二中学校として独立しました。その後、草創期の幾多の苦難を乗り越え、紆余曲折を経ながらも本県の学問の府としての役割を果たして参りました。しかし、昭和16年、太平洋戦争が勃発し10・10空襲をはじめ、激しい地上戦により沖縄が焦土化する中、学徒187名と職員9名の犠牲と共に、県立第二中学校としても終焉を向かえることになりました。その後、昭和23年那覇高等学校として独立認可され今日にいたりました。その成り立ちは本校初代校長、眞栄田義見先生の作詞による校歌として生徒、職員及び同窓生に広く歌い継がれてまいりました。終戦当時の厳しい状況から立ち上がり、幾多の苦難を乗り越えて世界へたくましく羽ばたいていく若人の様子が表現されております。

このような歴史を経て、卒業生総数45,833名を社会へ送り出し、本校校訓「和衷協同・積極進取」の下、先達が築いてきた輝かしい実績を礎に、21世紀を担う人材を育成すると共に文武両道を旗印に、努力を重ねてまいりました。めまぐるしい情報技術革新の中で、グローバル化が急速に進展し、変化が激しい時代にあっても、生徒の自立を支え、たくましさ豊かな人間性を育み、希望進路の実現に向けた教育に邁進してまいります。

これまで本記念事業にご尽力いただきました宮里博史実行委員長始め、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、保護者、同窓会、地域及び関係機関の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 校長

～ 期末考査の振り返り～

11月25日～27日の3日間で行われた期末テストが終了しました。生徒のみなさんはその出来映えに一喜一憂する週間となりそうですが、大切なことはこれからです。生徒のみなさんに是非取り組んでほしいことがあります。それは振り返りです。

そもそもなぜ定期テストを行うかということ“学習をどれだけ習得しているか”を知るためです。単純に成績を付けるためだけに行っているわけではありません。勉強もスポーツも考え方は変わらず、自分は何ができて、何ができていないかを知ることから始まります。できていないことは何度も何度も繰り返し、できるようにするために勉強(練習)をするのです。

できるようになるためには分析が必要です。正解がもらえても“本当に理解して正解しているのか、たまたまなのか”“分かっていたけど間違っただのは何故か”など丁寧に振り返りましょう。

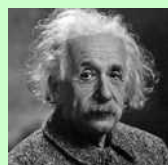
分からないことを分かるようにする。これが勉強です。本物の実力を身に付けましょう。 校長

*** 校長雑感 ***

教師になると決め“その前にいろんな職業を経験しよう”と考えた。土木業、建築業、運送業、うどん屋、競馬場の警備員、ゼリーの袋詰め、喫茶店、引っ越し、空手指導員、塾教師。いずれもアルバイトであるがとても勉強になった。特に競馬場の警備員の時は反社の方からまれて、超怖い思いもした。生徒のみなさんはどんな職業に就くのだろうか。とても楽しみだ。

～～～ 時の言葉 ～～～

「常識とは18歳までに身につけた
偏見のコレクションのことをいう」



(アインシュタイン)

最初にこの言葉を目にしたとき、衝撃を受けました。人は自分の生きてきた環境や経験に基づき物事を捉えがちになります。しかし、自分の考えや経験に固執すると視野が狭まり、発想が乏しくなります。心を柔軟に広げれば、多くのことに気づき生まれ、豊かな知性が身につくような気がします。 校長

～ 緊張の模擬面接！～

受験シーズン到来で3年生の模擬面接を校長、教頭含め全教職員態勢で取り組んでいます。

面接と一口で言っても、その状態は大学によって様々です。個人面接や集団面接など過去に実施された内容等を吟味し、志望理由、アドミツジョン・ポリシー、ディアドマ・ポリシー、志望理由に書かれている内容に関すること、高校時代に取り組んだこと等、様々な角度から質問を投げかけるように努めています。

推薦を希望する受験生にとって避けては通れぬこの試練に打ち勝ち、希望する進路実現に繋げてほしいと思います。 校長

